

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100314		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム寿楽(寿ホーム)		
所在地	上川郡当麻町4条西2丁目1番10号		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173100314-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173100314-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田や畑に囲まれ自然いっぱいの中、四季の移り変わりを感じながら、笑いのある生活を送ることが出来、地域の方々との交流の中で、一人一人が理念でもある「のびのび、にこにこ暖かく、ゆっくり、いっしょに、楽しく、長寿喜楽、敬老奉仕」にある様に、自分らしく過ごすことが出来る様努めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大雪山連峰の旭岳を望み町の市街地近くに位置し、周囲には上川百万石といわれた米作中心の田園風景が広がり、役場、消防署、体育館も徒歩圏内にある。向かいにはコンビニエンスストアがあり、広い駐車場は災害時の避難場所としている。当法人施設の「オレンジカフェ」が車で5～6分の町内にあり、災害時の物資備蓄をはじめ自家発電も備えている。宿泊もできる心強い場所を身近に備え利用者の安心も大きいものがある。地域との交流も多く、夏には地域住民から沢山の野菜が届けられ、事業所の「納涼祭」には家族だけでなく、近隣の住民や町の職員も訪れ大きな行事になっている。ボランティアの来訪、幼稚園児の訪問があり相互に交流している。管理者は地域に根ざしたホーム作りを目指し、理念に「のびのび・にこにこ・いっしょに・たのしく・」等を掲げ看取りから亡くなった時の対応まで経験しており終の棲家への期待も大きいものがある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 !該当するものに○印	項目	取り組みの成果 !該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、仕事が始まる前に唱和し、個々に自覚し実践に努めている。	理念「のびのび、にこにこ、いっしょに楽しく・・・」とより具体的に表現した「介護20か条」を掲げ、毎朝ミーティングにおいて確認し、より良い介護に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴時に声をかけて下さったり、季節の野菜を頂いたり、地域の幼稚園児が交流に来て下さったりしている。	住民から花や苗が届いたり、幼稚園児の訪問が年3回あり、お礼に事業所主催のクリスマス会に招いている。、法人主催の納涼祭に町の職員、利用者、家族、近隣の人々が参加して交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭、クリスマス会等の行事にボランティアの受け入れを通じ、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、報告や相談等、話し合いを行いサービスの向上に努めている。	2か月に1回の推進会議には行政、民生委員、家族が参加し、活動状況報告、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、認定調査時や運営推進会議時、事業所や利用者の状況を報告・相談し、協力関係を築いている。	町の担当者とは密に連絡を取りあい、緊急時にはすぐ対応できる体制をとっている。町の担当者が運営推進会議にも参加しており、管理者も地域ケア会議に参加し日常的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、ケアにおいてあってはならないと理解しており実践している。	身体拘束は行わない方針で、見回りを多くしたり、工夫して利用者の動きをいち早く感じ取るよう支援している。家族から安全上要望があっても事業所の取り組みを説明、家族に納得してもらい、拘束していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア時、お互い注意し、声かけ時にも注意を図り、全体ミーティング時にも学習会を行い話し合いをしている。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の該当者は、寿ホームにはいないが、楽ホーム利用者が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は行っている。入院された時等についても、不安や疑問点を尋ね、機会毎に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の中や家族の面会時の会話の中で、行事等の希望を聞きながら、要望に添える様運営に反映させている。	日々の関わりの中で利用者や、家族の意見・要望を聞き、可能なかぎり取り入れ運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全ての職員と面談を行っている。ミーティング等で話し合いもしている。	管理者は年に1回は全ての職員と面談を行い、職員の想いや気づきを聞いたり、毎日のミーティングの中での意見、要望を活かしたケアができるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通し職員の状況等把握し、総合施設長、施設長と相談し、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は積極的に参加している。法人外の研修の確保、ミーティング内の内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等に参加し交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前より、本人との会話や行動の中で困っている等見極め、ケアマネと相談し、ご本人が不安解消できる関係をつくれる様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時、家族の要望や本人の想いを受け止め、話し合いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の想いを考慮しながら、必要としていることを見極め、支援を考える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し、支え合うという意識で職員は支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ながら、その中で本人と家族の関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方の訪問、面会に制限はなく、いつでも来ていただける様支援している。	知人、友人が気楽に来訪できるように面会時間を制限していない。職員の自宅に利用者を招いたり、町の行事(祭り、敬老会)に出かけ知人に出会う機会をつくったりして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流により、孤立しない様、レクリエーション・生活リハビリ等の声かけをし、利用者同士が関わり合える様、支援している。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族との交流は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で、希望や意向を把握し、職員同士で話しをしている。	利用者の思い、希望をさりげない会話の中で、また職員同士の知りえたことの共有を通じて思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報書、センター方式等で生活歴や暮らし方がわかる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回アセスメントを使用し、現状の把握を全員で行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントでの現状をふまえ、本人の言動や課題を記録し、集約、プラン、モニタリングに反映している。	介護計画は定期的に見直し、職員3人が利用者3人と関わり毎月1人づつ職員が代わるケア支援を行い共通な認識の中できめ細かな支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過報告で利用者の状態等を記入し、状態の変化等がある場合にもその情報を共有し、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度記録し、時には地域の方や福祉課の方達に協力していただき、プランに活かし取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政の協力等、様々な資源と協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診、利用者の生活状況の変化等、看護師と相談し連携した対応を行っている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。町立診療所の受診には職員が同行し、家族とも話あっている。事業所に看護師もおり、かかりつけ医と連携し対応している。	

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職があり、職員からの情報・相談で受診を受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院側へ早期退院の働きかけをし、ご家族、病院と情報交換をこまめに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の兆しの頃から、家族と話し合いを持ち、家族の想いや本人にとって良い方向を検討しながら同じ方針と共有している。	重度化や終末期のケアについては総合施設長を中心に方針を決めている。今までに家族のいない方を看取り、葬式も行った。今後看取りは増えてくと思うが事業所の考え方を本人、家族、職員とも共有しその時々事例に対応する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、年2回避難訓練及び避難時の研修を行っている。行政、家族会、地域住民の参加も協力していただいている。	災害時には町内の建築屋さんとの協定を結び協力体制ができている。火災の時には近隣の人々に応援を依頼し、その他の災害時は近くにある法人のオレンジカフェに行くことになっている。	町役場との良好な関係をさらに密にし、火災、自然災害など、災害時の一時避難場所の確保、通信手段がなくなった時の対応など、さらに検討する事を望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、思いやりのある声かけを心がけている。	言葉づかいに気を付け介護20ヶ条をもとに一人ひとりを傷つけることがないようにケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには受容し、自己決定が出来る様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	体調等観察しながら、一人一人のペースに合わせてながら、希望にそえる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、天候に合わせたおしゃれについて、選択出来る方には本人に選択していただいている。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食器洗い等を、利用者と一緒にやっている。	家族や近隣の住民から頂く野菜や魚などを中心に旬の料理を利用者とともに調理している。法人には管理栄養士がいて1500カロリーの食事提供に心がけている。冬にはお寿司の出前を頼んだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を表に記入し確認を行い、不足している時はその都度すすめながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。その際、口腔内の観察も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等確認し、排泄パターンを確認し誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来る様支援している。	トイレが2ユニットに6か所設置されている。現在、紙パンツは使用されておらず、バットのみである。仕草などでトイレ誘導を行い自尊心を傷つけないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	季節の野菜、果物を工夫し、水分の多いものを取り入れ、体操等運動の声かけをし予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調を確認しながら、希望やタイミングに合わせ、入浴を楽しんでいただける様支援している。	週2回曜日を決めて入浴しているが、夏はシャワー浴をしたり、別の日でも利用者の状況に合わせて対応している。入浴を嫌がる利用者には、職員、時間を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休んでいただいたり、夜眠れない時は、日中の活動量を増やしたりし、安心して気持ち良く眠れる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の成分表を確認し、薬の変更があった場合は症状の変化を見のがさない様、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を見極め、本人の得意とすることを役割として持たせていただき、張り合いが出る様支援している。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に制限はなく、利用者に外出を楽しんでいただけ様、家族や地域の人々に協力を得ながら支援している。	事業所の前に日光浴や散歩の出来る広場がある。新しくできた「オレンジカフェ」に出かけたり、当麻町主催の行事(祭り、敬老会)に出かけたりしている。花見、芋ほりなど楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける時は、相手が電話口に出られる迄の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節感を感じていただける飾り物であったり、居心地良く過ごしていただける様、工夫配慮を心がけている。	共用空間は広く食事をするところ、休むところが別になり、壁にはちぎり絵が飾られている。外には東屋があり、散歩の途中立ち寄り一休みしたり外気浴をしたり憩いの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を変えたり、状況に応じて思い思いに過ごせる様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の部屋として、なじみの物、使いなれた物等、家族と相談し、居心地良く過ごせる様工夫している。	居室には洗面台、ベット、防災カーテン、物置台が備えられ、仏壇、ソファを置いたり、写真、塗絵等を飾り居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ることを見極め、手すり、居室のベッドの周囲にも気を配り、安全で自立した生活が送れる様工夫している。		